

2005年4月27日 物理学研究者連絡委員会

IUPAP 専門委員会

インド人研究者の日本入国 VISA に関する問題の再提起

高エネルギー加速器研究機構 黒川 眞一

昨年12月14日に、私と高エネルギー加速器研究機構の永宮正治が、「インド人研究者の日本人入国 VISA に関する問題」について、IUPAP 専門委員会および物理学研究者連絡委員会にて問題を提起いたしました〔資料 2 およびその付属資料〕。発端は、昨年4月に高エネルギー加速器研究機構の国際共同利用実験である BELLE 実験に参加するべく、インドの大使館または領事館に VISA を申請したインド人研究者3名(2名は Tata Fundamental Research Institute, TIFR に所属し、もう1名は、Punjab 大学教授)の VISA が、結局6月になって拒否されたこと、また、10月には総合研究大学院大学の国費留学生として来日予定であった Centre for Advanced Study(CAT)所属の研究者1名(予定指導教授は高エネルギー加速器研究機構の黒川 眞一)の VISA が拒否されたことです。昨年の問題提起から、4ヶ月を経過した現在においても、この問題はいまだ解決されておられません。

昨年度1年間の高エネルギー加速器研究機構に関するインド人研究者の VISA の取得状況は以下のようにまとめられます。

インド人研究者が VISA を取得する場合は、受け入れ側の研究機関が発行した身元保証書を大使館または領事館に提出しなければなりません。昨年度1年間に、16人のインド人研究者が、高エネルギー加速器研究機構が発行した身元引受書をもって、VISA を申請しておりますが、このうち BELLE 実験に参加しようとした3名の VISA が拒否され、また昨年の12月に来日予定の素粒子理論研究者に対して、いまだ VISA が発行されておられません。前者の3名については、再度申請を行いましたが、まだ VISA の取得ができておりません。この方は、インドの Harish-Chandra Institute に所属する素粒子理論の研究者です。これらのケースはいずれも3-12ヶ月滞在するケースであり、上に示した国費留学生の場合の3年間の滞在であり、主な滞在所が高エネルギー加速器研究機構であることを考えると、高エネルギー加速器研究機構研究所に3ヶ月以上滞在する場合は、すべて VISA が所得できていないこととなります。また、VISA を拒否された研究者の所属も、TIFR や CAT というインド DAE (Department of Atomic Energy) 傘下の研究所だけでなく、Punjab 大学や Harish-Chandra Institute など DAE 傘下でない大学や研究機関に所属する研究者も VISA を取得できておりません。VISA が所得できた場合は、いずれも国際会議または研究打ち合わせのために短期に来所す

るケースであり、このときは DAE 傘下の研究機関、例えば、TIFR や CAT、に所属する研究者にも VISA が発給されております。

また、2003 年に岐阜大学が、高エネルギー加速器研究機構で実施した「ダブルストレンジネス核検出実験」のデータ解析および高エネルギー加速器研究機構への随時訪問を目的として、岐阜大学外国人特別研究学生として、AMU 大学に所属するインド人研究者を 3 ヶ月間招聘しようとしたときにも、VISA が拒否され、その後、2004 年に再申請を行い再び拒否をされたこと最近知りました。

今年 4 月 6 日に IUPAP C11 Commission Chair の SLAC の Vera Luth 教授から、東大の相原博明教授宛に、Petroff IUPAP 議長がインド人 VISA 問題について日本政府に働きかけを考えているので、状況を教えるようにという依頼の email が届き、私にも cc されておりましたので、4 月 12 日に私から状況を知らせる返信を行っております（資料 1）。

インドの科学技術の進展は近年目覚ましいものがあり、今、積極的に交流を拡大する必要があります。本年 8 月に科学技術・学術審議会国際化推進委員会から出された「科学技術・学術の国際展開の戦略的推進について」（中間報告）でも国際展開する課題として、アジアにおける連携強化を掲げており、その具体策としてアジア地域内の研究者ネットワークの構築・若手研究者育成の観点にした交流に対する支援の促進をあげております。今回のインド人研究者に対する VISA の問題は、この方向に向けての推進に対する大きな妨げとなるものであり、我が国の今後の発展にとっても憂慮すべき事態であると考えます。

また、今年 3 月 23 日には学術会議の黒川清会長コメントがだされ、その中で、

わが国には、現在、B-ファクトリー（電子・陽電子衝突施設）、SPring-8（大型放射光施設）、スーパーカミオカンデ、地球シミュレータ（超高速スーパーコンピュータ）、E-ディフェンス（大型 3 次元振動台）、すばる望遠鏡、国際宇宙ステーション日本実験棟（きぼう）、地球深部探査船（ちきゅう）など、世界のオンリーワンあるいはトップランナーとして活躍する先端的大型研究施設やプロジェクトがある。また、J-PARC（大強度陽子加速器施設）や RI ビームファクトリーなども近く完成の予定である。これらの施設は、わが国が創造的研究や革新的技術開発を通して学術の発展と科学技術の進歩に貢献する重要拠点であり、人類の未来を支える科学技術を創造する役割と期待を負っている。

〔中略〕

とくに、アジア諸国の研究者にこれらを広く開放し、アジアから世界に羽ばたく人材を育成し、これらの研究者がそれぞれの国で、そしてアジアで、そして世界で多くの成果を挙げ、未知の問題の解決に取り組むことが、わが国のアジアでの、そして国際社会での貢献であり、責任である。このような理念こそが、日本の科学技術政策、特に大型科学研究計画には必要なのである。

と書かれております。BELLE 実験に参加しようとするインド人研究者に対して VISA を発給しないことは、会長コメントの冒頭に示されている、B ファクトリーからアジアの国の一つであるインドからの研究者を閉め出すことであり、現在の状況は、会長コメントの精神に全く反するものであると考えます。

学術会議物理学研究連絡委員会としても、この事態を重く受け止め、外務省に対し、意見を表明することを強くお願いする次第です。

資料 1 4月12日付け、黒川から Vera Luth 教授への返信

Dear Vera,

Let me summarize here the situation of Indian researchers' visas into Japan with respect to KEK.

From April 2004 to March 2005 KEK issued the form of guarantee to Indian researchers. For Indians to get Japanese entry visas they need to submit the form of guarantees issued by inviting institutes to Japanese Consulates in India.

The following is the list of these 16+1 cases, visa was denied in five cases.

- (1) Kaw Predhiman, Director of Plasam Institute, 04/05/08-05/20, New Delhi, to participate in a conference, visa was issued
- (2) Gobinda Majumder, Researcher, TIFR, 04/05/15-09/15, Mumbai, to participate in BELLE experiment, visa was denied
- (3) Garima Gokhroo, Researcher, TIFR, 04/05/15-05/05/15, Mumbai, to participate in BELLE experiment, visa was denied
- (4) Jasbir Siggh, Professor, Punjab University, 04/05/15-08/15, New Delhi, to participate in BELLE experiment, visa was denied
- (5) Atul Grutu, Researcher, TIFR, 04/05/23-05/30, Mumbai, discussion on collaboration, visa was issued (MOFA of Japan made a phone call to KEK and asked KEK whether he would go into the facility).
- (6) Amit Roy, Director of NSC, 04/05/23-05/30, New Delhi, discussion on collaboration, visa was issued (MOFA of Japan made a phone call to KEK and asked KEK whether he would go into the facility).
- (7) Rishikesh Dilipkumar Vaidya, postdoc of National Central University of Taiwan, 04/06/09-07/03, Taipei, to have discussion on particle theory, visa was issued
- (8) Chacko Zackaria, postdoc of U.C. Berkeley, 04/06/12-06/24, San Francisco, to participate in international conference "SUSY04", visa was issued
- (9) Roy Surov, postdoc of Helsinki Institute of Physics, 04/06/12-06/24, Helsinki, to participate in international conference "SUSY04", visa was issued
- (10) Alokmay Dotta, Associate Professor of Saha Institute of Nuclear Physics, 04/08/21-28, Kolkata, to participate in workshop on design of beamlines of Shanghai Light sources, visa was issued
- (11) S.K. Bhargava, Professor of RMIT University, 04/10/10-10/14, Melbourne, to participate in a light source experiment, visa was issued
- (12) D.B. Akolekar, Researcher of RMIT University, 04/10/10-10/14, Melbourne, to participate in a light source experiment, visa was issued
- (13) Deepa Angal-Kalinin, Senior Accelerator Physicist of Daresbury Laboratory, 04/11/12-11/16, London, visa was issued
- (14) Rohini Madhusudan Godbole, Professor of Indian Institute of Science, to have discussion on collaboration, 04/11/12-11/17, Chennai, visa was issued
- (15) Sudhakar Panda, Professor of Harish-Chandra Institute, 04/12/01-05/02/28, New Delhi, KEK visiting scientist, visa was denied
- (16) Adith Kumar, Researcher of NSC, 05/03/21-03/26, New Delhi, to

participate PCaPAC2005 workshop, visa was issued.

In addition to the list, in October 2004, one Japanese government supported graduate student was denied his visa. This case, MEXT approved him as a Japanese government supported graduate student and SOKENDAI, graduate school jointly operated by national institutes including KEK, sent an official invitation letter. His would be supervise was myself (Shin-ichi Kurokawa of KEK) and the subject of his study was superconducting magnet technology. Lenght of his stay in Japan would be 3 years from October 2004 to September 2007.

Best regards
Shin-ichi

On Wed, 6 Apr 2005 12:35:33 -0700
"Luth, Vera G." <luth@slac.stanford.edu> wrote:

> Dear Hiro,
>
> I received a letter from Yves Petrov, the chair of IUPAP.
> He is planning to contact the Japanese Government in regard to visa restrictions
> for Indian Scientists working in Japan.
>
> Has the situation changed since you last sent me information?
> Is there any additional information? How many scientists working on
> Belle and KEKB are currently affected ?
>
> I would appreciate hearing from you briefly,
>
> best regards,
> Vera

2004 年 12 月 14 日 物理学研究者連絡委員会

インド人研究者の日本入国 VISA に関する問題提起

高エネルギー加速器研究機構 永宮 正治、黒川 眞一

今年の 4 月に高エネルギー加速器研究機構の国際共同利用実験である BELLE 実験に参加するべく、インドの大使館または領事館に VISA を申請したインド人研究者 3 名（2 名は Tata Fundamental Research Institute, TIFR に所属し、もう一名は、Punjab 大学教授）の VISA が、結局 6 月になって拒否され、現在にいたるまで VISA が発給されておられません(付録 1)。また、今年 10 月には総合研究大学院大学の国費留学生として来日予定であった Centre for Advanced Study(CAT)所属の研究者 1 名（予定指導教授は高エネルギー加速器研究機構の黒川 眞一）の VISA が拒否されました（付録 2）。TIFR は基礎科学のための研究所であり、CAT はインドにおける最大の加速器研究所で、もっぱら加速器とレーザーの研究を行っております。Punjab 大学もふくめ、これらの研究機関は、核拡散に関わるいかなる研究も行っておりません。

また、昨年 10 月に盛岡で開かれた Magnet Technology Conference においても 2 人のインド人研究者の VISA が拒否されております。

このような事態が引き続き起こるようであれば、日本とインドの間の高エネルギー物理学、原子核物理学そして加速器科学における共同研究や協力を行うことは全く不可能となります。

インドの科学技術の進展は近年目覚ましいものがあり、今、積極的に交流を拡大する必要があります。本年 8 月に科学技術・学術審議会国際化推進委員会から出された「科学技術・学術の国際展開の戦略的推進について」（中間報告）でも国際展開する課題として、アジアにおける連携強化を掲げており、その具体策としてアジア地域内の研究者ネットワークの構築・若手研究者育成の観点から明確にした交流に対する支援の促進をあげております。今回のインド人研究者に対する VISA の問題は、この方向に向けての推進に対する大きな妨げとなるものであり、我が国の今後の発展にとっても憂慮すべき事態であると考えます。

なお、インドが原子爆弾の実験を行ったことにより、1998 年から 2000 年の間、インド

人研究者が FNAL の D0 実験に参加できない時期がありましたが、9 月 11 日以後でありながら、現在は問題なく VISA を取得できております（付録 3, 4）。

学術会議物理学研究連絡委員会としても、この事態を重く受け止め、外務省に対し、意見を表明することを強くお願いする次第です。

資料 2-付録 1 : BELLE におけるインド人 VISA 問題

インドのビザに関して、Belle でこれまでに起こったことをまとめます。
よろしく願いいたします。

事例 1 Gobinda Majumder (Tata 研究所、Mumbai)

2004 年 4 月 KEK より招聘状送付し、Mumbai の領事館にビザ申請。

5 月 21 日 領事館より本人に対して、「外務省に確認をとるため、ビザの発給が遅れる」との連絡。

5 月 25 日 領事館より本人に対して、「外務省から返事がないためにビザの発給ができない」との連絡。

以降、国際企画課を中心に文科省、外務省と連絡をとってもらうが、明確な回答が示されず。

6 月 4 日 東京入国管理局に在留資格認定証明書を申請し、認められる。

6 月 22 日 本人がこの証明書を添えて再度 Mumbai の領事館にビザ申請。

6 月 23 日 領事館から本人に対して、「ビザが認められた」、「再度外務省に確認する必要がある」という連絡が立て続けにあった模様。

この後は領事館から連絡なし。国際企画を通じて外務省に確認を試みたがはっきりした回答なし。現在もこのままである。

事例 2 Jasbir Singh (Panjab 大学)

2004 年 4 月 KEK より招聘状を本人に送付するとともに、ニューデリーの日本大使館にビザ申請に関わる書類を FAX。

5 月 26 日 大使館から本人に、「外務省に確認するので待つように」との指示。国際企画課が外務省に連絡するも、はっきりした回答なし。

5 月 27 日 大使館から本人に、「ビザの書類は預かるが、再度外務省に確認する」という連絡。

6 月 17 日 ビザの発給が拒否された。6 月 23 日 東京入国管理局より在留資格認定証明書を得て、再度ビザを申請。

6 月 24 日 大使館より本人に、「書類を外務省に戻すため、発給には 2 - 3 週間かかる」との連絡。

7 月 7 日 国際企画課より外務省に連絡するが、はっきりしない。「うまくごまかされた」そうである。現在に至るも進展なし。

事例 3 Garima Gokhroo (Tata 研究所、Mumbai)

4 月 20 日 KEK がビザ申請に関わる書類を送付。本人がすぐに領事館に申請。

5月13日 本人がKEKに対策を求める。国際企画課が連絡を試みるがはっきりせず。

この後、事例1, 2と同様に在留資格認定証明書を添えて再申請を行うが、状況にはなんら進展なし。

というところが現状です。事例3のGarimaは大学院生であり、学位の取得が危うくなる可能性もあり、また、インドからBelleに参加する3機関（Tata, Panjab Utkal）にはこれ以上Belleに参加し続けることは困難との空気が出始めています。大変苦慮しております。

高エネルギー加速器研究機構
山内 正則

資料 2-付録 2：インド人留学生(総合研究大学院大学)の Visa が拒否された経過 黒川眞一

氏名：Kailash Ruwali

所属：Center for Advanced Study (CAT)

予定指導教官：黒川 眞一

予定研究内容：加速器用超伝導電磁石の研究

Ruwali 氏は、総合研究大学院大学の国費留学生（国際大学院コース）として採用されたことを受け、9月21日にインドのムンバイの領事館に visa の申請を行いました。また、大学側は10月5日ムンバイ発東京行きの PTA 航空券を近畿日本ツーリストに依頼して発券済みであり、当人は10月4日にムンバイに行き、visa と航空券を受け取る予定でした。ところが、10月1日に、外務省から文部科学省を経由して総合研究大学院大学に対して、Ruwali 氏の visa は10月4日には間に合わないむねの連絡がありました。これを受け、私が本人に電話をして、10月4日には visa が下りないことを伝え、また、10月4日に領事館に連絡を取り、いつまで待てば良いかを確認するように指示しました。10月5日に再び本人に電話をかけたところ、領事館は10月8日に再度問い合わせをするようにといているということでした。そして、10月8日に本人から電話があり、領事館から visa を発給しないむね申し渡されたということでした。

CAT はインド最大の加速器の研究所であり、CAT からの留学生に対して visa がでないようならば、加速器および素粒子物理の分野において、日印の協力は全く不可能となってしまいます。ILC を国際協力で作ろうという方向に完全に反するものであると考えます。

資料 2-付録 3 FNAL の状況に関する黒川眞一と FNAL のインド人研究者 Shakhur Mishra との間の mail(2004/11/11-12)のやりとり

Dear Shin-ichi,

To best of my knowledge there is not any serious problem in getting visa for the scientists of India to work at Fermilab. Fermilab has close to 100% success rate in getting visa according to our visa office. In a few cases it does takes up to 30 days to get clearance. Also you should know that the visa situation in US has improved considerably. We do not have any experience with BARC but I know that scientists from BARC works at BNL these days.

See you on Sat.

Shekhar

Shin-ichi Kurokawa wrote:

>Dear Mishra,

>

>May I ask you a favor ? I want to know how difficult it is for Indian

>scientists who belong to TIFR, CAT, VECC, etc., to get the VISA into the

>US, especially when they stay in the US for some experiments or

>collaborative works.

>

>I look forward to seeing you soon at KEK.

>

>Best regards

>Shin-ichi

資料 2-付録 4 : TIFR の Naba K Mondal 氏から黒川 眞一宛の Email (2004 年 11 月 22 日 付け)

Dear Prof. Kurokawa,

This is in reference to your earlier email on the visa situation regarding our participation in the D0 experiment at Fermilab.

First on a personal note, I am participating in experiments at Fermilab over two decades and never encountered any visa problem except for about two years in late 90s when there was a complete ban on Indian scientists visiting various Department of Energy labs in the US.

Now about the visa situation in general. I would like to divide this into two periods. Pre 9/11 and post 9/11 as the problem associated with US visa was of different nature during these two periods.

TIFR and two other Indian groups are participating in the D0 experiment from 1990. We had no serious Visa problem upto 1998. In 1998 however US government banned visits of physicists from a large number of Indian institutes to any DOE labs (like Fermilab, ANL, BNL etc). This was in response to the nuclear explosion that took place in India and Pakistan. After this ban there was strong protests from our colleagues in US. About 300 physicists from D0 collaboration wrote strong protest letters to US Secretary of State and US Secretary of Energy requesting to remove the ban on physicists from TIFR so that they can participate in the D0 experiment. They also mentioned the 500K US\$ contribution of TIFR towards D0 detector. American Physical Society as well as US National Academy of Sciences also protested against this ban. Finally this ban was removed in 2000.

The problem we faced after 9/11 are of different nature. Now there is no ban on Indian physicists visiting US labs. However occasionally the visa applications of our students are delayed, some times by more than a year. Here the denial was under section 214(b) of the INS law.

What it means is that the officer at the counter who is looking at the visa application is not satisfied with all the documents and is not entirely convinced that the applicant will return to his home country after his temporary stay in US. At least that was the official reason given to our students.

This section 214(b) requires an applicant for a nonimmigrant visa to establish that:

* he/she seek to enter the US temporarily for business or pleasure;

- * he/she plan to remain in US only for a specific period of time; and
- * after the trip he/she intend to return to a residence outside the US.

The most uncertain part of this is that, the consulate officer will not tell you what specific types of evidence is required. However the consular officer must be convinced based on the papers produced and the interview. Normally a letter from TIFR along with the invitation letter from the Fermilab is sufficient to get a nonimmigrant visa. However in case of two of our students in recent times it took long time to get the Visa. In one case Fermilab wrote a letter directly to the US consulate at Mumbai and the visa was issued after that. But for the second case, it took more than a year to get the visa.

At present however all our faculty members and students involved in the D0 experiment has long term visa and can visit Fermilab without problem. However we have to see when our next new student applies for visa if the problem still exist or not.

Hope this is useful for you to sort out the visa problem faced by Indian physicists for visiting KEK.

Please let me know if you need any further information or clarifications.

With regards.

Naba K Mondal

Prof. Naba K Mondal

Chair

Dept. of High Energy Physics

Tata Institute of Fundamental Research

Homi Bhabha Road, Mumbai 400005

WEB : www.hecr.tifr.res.in/~nkm

Tel: 91-22-22804545 ext 2227
